



## 優しさに包まれた 花づくりを



清水 明美さん（矢島・50歳）

「お花を嫌いな人はいませんから、年齢には関係なく、花を通じて友だちが増えたんですよ。心が和み、癒され、元気にしてくれる花は本当にいいですね」と笑顔で語る清水さんは、毎年「花いっぱい運動」に参加をしています。昨年の花のまちづくりコンクールでは、最優秀賞を受賞。バラを中心に花づくりをしています。友だちから頂いた1本のバラの挿し木。

でも、こんなにのめり込んだのは、両親が入院した時からでした。どんなに看病で疲れて帰っても、花の世話をするので、自然に元気のエネルギーをもらえ、がんばりました。当時は、病院の帰りに必ずというほど、バラの苗を買って帰るといのが習慣になっていて、種類や手入れ方法などは本を買って調べました。1つ買うとまた違う種類が欲しくなって、だんだんと色々な種類が増えていったんです。両親が亡くなった時、お墓や仏壇には自分で育てた花を供えたいと思い、四季折々の草花も植え始めました」と話していました。

「春先は、暗くなるまで庭で花いじりして夕飯などは後回し。家族には迷惑を掛けるんですが、みんな文句も言わず協力してくれるんですよ。特に主人は、剪定して出た枝の片づけや枯れ葉の掃除、庭には、廃材などを利用して、手作りのテーブルやイスを設置してくれました。春には、たくさんバラや草花が咲き、本当にきれいです」と笑顔で語っていました。

# みんなの声

このコーナーでは、皆さんからお寄せいただいた「町への手紙」や、町民の声（ご意見箱）の一部とその回答をみんなの声として掲載していきます。なお、スペースの関係で質問の内容は一部簡略化させていただきました。

### Q 道路側溝の溝蓋布設について

安全面に関して今、長良神社が園バスの停留所になっています。その隣に公園があり、いつも子どもたちが遊んでいます。公園側のU字溝には蓋をしていたのですが、いまだに神社側には蓋がありません。

つておよそ36年になります。その間、社会の変化に応じて側溝整備の内容も変化してきましたが、現状では多くの道路側溝が蓋をしていない状況です。

3年前に私の娘が、U字溝に落ちて唇を切ってしまう怪我をしたのです。私の不注意ですが、安全性を考慮してぜひお願いします。

これは、町の道路整備の方針が道路拡幅改良と道路舗装を進めて行くことに重点を置いているためです。現在では、道路拡幅改良・道路舗装の外に道路側溝整備や側溝蓋設置も実施されていますが、町内にはいまだ道路側溝が設置されていない道路も多数残されています。

（中谷・女性）

### A 道路の危険性や交通量等を考慮しながら検討していきます

町の道路整備事業が始ま

今後町では、道路の危険性や交通量、また、地域のバランスも考慮に入れながら側溝蓋の布設を検討していきたいと思っています。

（都市建設課）